着眼点５「仲間」～共通する課題を持つ仲間を見つけ協働する～

国土交通省

- 観光まちづくりを行う上では、自治体が、創発人材を支援し、様々なステークホルダー（住民、まちづくり団体、地元金融機関、地元商工会、大学、不動産会社等）をつなぐことにより、創発人材の個々の活動を、まち全体の取り組みへと調和させていくことが重要です。ゆえに、地元に近い自治体が、創発人材との役割分担を行って、連携していくことが重要です。
- 地元の企業や人材との接点を豊富に持つ自治体には、人材のキャスティング、利害調整を図るコーディネーターとして、関係者間の相互理解を促し、連携を支援する役割が求められていると考えます。
- 少人数の創発人材の頭の中にある、まちにとっての課題と、それに対するプロジェクトについて、プランナーの力を借りる等の支援を行い、他者に伝わるように価値を提示することによって、初めて幅広い分野の関係者が、関係性を認識し、連携していくことが出来ると考えます。

【この着眼点に関連して有識者からいただいたコメント】

・地域経営には地域の商品となるような新しい価値を自主的に生み出すことが求められる。補助金が出る時だけやるではなく、継続的に実施していくことが必要。継続するポイントとしては、多様性と、成果を出すことである。わかりやすく言えば頑張った時間が報われる（売上などの儲けや人との交流を深める）こと。

・そのためには、最初から大きく巻き込まないことが重要であると考える。少数でも良いので志を同じくする仲間で成果を出すことで、人は後からやってくる。本気で考える人が本気で取り組みを行えば、行政側の支援も変わってくる。

・地域経営を行う上で、様々なステークホルダーが足の引っ張り合いをしている状況をなくさなければならない。地域経営を行う主体を明確にして、そこが責任をもって地域づくりに取り組み、なりたい姿に近づけていかなければならない。責任の所在をはっきりさせることが重要である。

・明確なゴールの設定が必要である。観光まちづくりをやるという時には、どこに向かうべきかという期待や本気度が非常に重要である。このゴールに向けて、既存の組織がそれぞれ役割を持って取り組むべきである。また、その役割分担においても、重複や抜けが無いかを確認して行うべき。

・観光まちづくりを進めていく上でもっとも重要なのが、広域の視点である。自らの市町村以外が白地図となった観光地図をみかけることが多いが、インバウンドを含む現在の観光客は市町村域などまったく意識せずに行動しているので、広域連携でどれだけ広汎に魅力的なエリアを形成できるかどうか、がカギとなる。

着眼点5 「仲間」～共通する課題を持つ仲間を見つけ協働する～

国土交通省

【着眼点5に関する小山市・結城市の取り組み状況】

＜観光まちづくりを進める上での両市の関係性＞

	外から人を呼び込むための共通テーマ	関係する地区の特徴	連携の糸口
小山市（絹・桑地区）	ユネスコ無形文化遺産に登録された結城紬（共通ブランド）の活用 ⇒結城紬のユーザーを増やしたい	生産者が居住する集落	関連地域の活性化 （共通課題）
結城市（中心地区）		見世蔵が点在する問屋街	

取組のポイント

①両市が連携を強化し、データに基づく現状認識と、共通した目標（明確なゴール）を設定することが重要。
②イベント開催する際は、意欲のある民間組織（まちづくり団体等）を積極的に活用することも大事。
③交流人口を増やすことも大切であるが、今回の観光まちづくりを推進することで、まずは地域の人が自分たちの地域に誇りを持つことがより重要。

小山市の主な課題認識

①本場結城紬の問屋街や歴史的街並みを有する結城市との連携が最重要課題。
②「和ブーム」を地域活性化につなげるための地区のまちづくり団体との連携・協力。
③本場結城紬産地の見学者受け入れ体制の整備。
（例えば、関連作業場(自宅)の開放、結城市へのコミュニティバス乗入）

結城市の主な課題認識

①小山市と連携した本場結城紬のPRや、同市の養蚕農家や「桑の実プロジェクト事業」と組み合わせた観光ルートづくり。
②観光協会はあるものの、イベントの運営事務局は市で対応しているため、本来行政が行う観光振興への取り組みが不十分となってしまう。
③見世蔵等の歴史的な建物は点在しており、一体的な利活用が難しく、観光資源としての本場結城紬の有効活用が進まない。

（出典：「第2回観光まちづくり検討会」小山市提出資料）

（出典：「第2回観光まちづくり検討会」結城市提出資料）

着眼点5 「仲間」～共通する課題を持つ仲間を見つけ協働する～

国土交通省

小山市での取り組み

【絹地区まちづくり研究会】

●平成17年4月に「小山市地区まちづくり条例」を施行し、地域が主体となったまちづくり活動を支援している。小山市で35番目の研究会となる「絹地区まちづくり研究会」が、平成27年5月に登録されたところ。

●今後、「地区内のまち歩き」などを実施し、現況を把握した上で、まちの宝を残していく事や資源を活用する事で、地区独自の魅力的なまちづくりを推進していく予定。

●「本場結城紬」をまちづくりのテーマの一つとして捉え、地域活性化につなげたいと考えている。

糸つむぎ

地機織り

他の地区の研究会の様子

（出典：小山市より写真提供）

結城市での取り組み

【結いプロジェクト】

●平成22年に「結い（＝昔の田植えなどにおける共同作業）」でつなげるまちおこしを目的として、20歳代～30歳代の若者中心のメンバーで「結いプロジェクト」が発足。

●市のまちづくり団体である㈱TMO結城と連携し、まちなかクラフト市（＝「結い市」）、まちなかコンサート（＝「結いのおと」）といったイベント等を企画･運営している。

●単なるイベントではなく、「人や物の縁結び」を趣旨とした活動を行っており、現在では、市外や都心からの応援者も増えている。

結い市

結いのおと

（出典：結城市より写真提供）

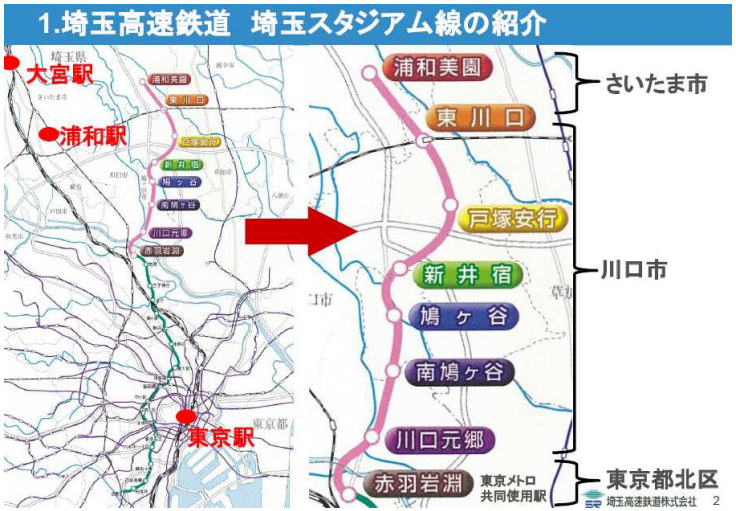
着眼点５「仲間」～共通する課題を持つ仲間を見つけ協働する～

国土交通省

【着眼点5に関するさいたま市・川口市の取り組み状況】

＜観光まちづくりを進める上での両市の関係性＞

	外から人を呼び込むための共通テーマ	関係する地区の特徴	連携の糸口
さいたま市（美園地区）	埼玉高速鉄道（＝SR）沿線のブランディング化 ⇒地域資源を活用し、付加価値を創出	新しいまち（まちづくりしやすいエリア）	イベントの共同開催
川口市　（SR沿線）		沿線に隠れた地域資源あり	



（出典：「第3回観光まちづくり検討会」埼玉高速鉄道株式会社提出資料）

取組のポイント

①都市間連携により、鉄道沿線は「ひとつのまち」となり、PR活動や誘客が効率化されるだけでなく、点から線、そして面的な活動の広がりが期待できる。
②都市間競争が激化している中、「やり易いところから、やりましょう！」をキーワードに、共通のガイドマップの作成やイベントの共同開催などから、連携を始めてみる。

さいたま市の主な課題認識

①鉄道沿線で連携したまちづくりを行うには、自治体間でビジョン（ゴール）を共有し、それに向けた枠組み（体制）をきちんと構築する必要あり。
②浦和美園駅周辺を中心に、駐車場としての暫定活用が多く、本格的な土地活用に至っていない。（まちづくりに寄与する土地活用が必要）
③「埼玉スタジアム2002」周辺の調節池が大規模な遊休地となっており、活用策の検討が必要。
④拠点施設間の「日常の足」が無く、実質的に車社会化している。

川口市の主な課題認識

①沿線のブランディング化を進めるには、隣接市や交通事業者とWin－Winの関係を構築する必要あり。
②平成23年に旧川口市と旧鳩ヶ谷市が合併、旧2市域を貫く埼玉高速鉄道を核とした旧市域にとらわれないまちづくりを進めることが課題。
③観光まちづくりを具体化し持続可能な取り組みにしていくためには、各関係者（官民）が定期的に集まり議論する場を設けたり、担い手（民間団体）を発掘・育成する必要あり。

着眼点５「仲間」～共通する課題を持つ仲間を見つけ協働する～

国土交通省

さいたま市での取り組み

【一般社団法人美園タウンマネジメント】

●美園地区を舞台に次世代の地域マネジメントモデルを構築・発信していくための母体組織として「美園タウンマネジメント協会」が発足し、その運営事務局として平成27年7月に当該社団法人が設立された。

●行政・住民・地域団体・民間企業・大学等、まちづくりに関わる各主体の「つなぎ役」として機能している。

●近年では、地域住民や民間企業の自発的なまちづくり活動として、イベント（花火大会など）の実行委員会が組織化されたり、鉄道会社社長の声かけで地域住民と民間企業と の情報交換の場が設けられたりしている。

（出典：「第3回観光まちづくり検討会」埼玉高速鉄道株式会社提出資料）

川口市での取り組み

【各地域のキーパーソン】

●歴史のある植木のまち「戸塚安行」、緑豊かな自然が楽しめる「新井宿」、昭和の風情が感じられる「鳩ヶ谷」など、鉄道沿線に様々な地域資源がある。

●各エリアの特徴を活かしたイベント活動を通し、誘客を図っている。

●まちに根ざしたキーパーソンを核としたイベント（まちづくり活動）を実施することで、地域全体が一つになり、地元住民が地域を誇れるようになっている。

川口緑化センター・樹里安

地蔵院での寺フェス

（出典：「第3回観光まちづくり検討会」川口市提出資料）